

どう自分の力を最大限発揮し、進みたい道に進むか

は自分次第

語り手 畠 麻理奈 (高校十三期生 外資系会社員)

聞き手 卯田 理子

―本日は立守の聞き書きに参加していただきありがとうございます。では今から私が考えてきた質問させていただきます。メールの方に送らせていただいた質問の順番で答えていただこうと思います。まず今回の聞き書きは立命館守山の20周年を記念してのイベントなので立命館守山と畠さんとの関係などを教えていただきたいです。

私は高校の十三期生として入学して2020年度に卒業しました。高校から立守に入って陸上部に所属していました。

―では最初の質問になるのですが、なぜたくさんの高校がある中で立命館守山高校を選ばれたのかを教えてください。

はい。ありがとうございます。立命館守山を選んだ理由として一番大きかったのはすごく校舎や守山市の雰囲気が好きだったっていう単純な理由と、立命館大学の国際関係学部を進学先として意識していたことから自然と附属校進学を目指していたという背景もあります。

―そうだったんですね。

そういう思いがかなり強くありましたね。まあ国際関係学部に行くって思ったら多分国際的な方がいいなって思ってた最初は宇治に行こうかなって思ってたんですけど宇治に行った時に感覚と立命館守山のオープンキャンパスに行った時の雰囲気がつもりの方がなんとなく自分に合う

感じもしてちょっと田舎な感じが・・・(いい意味で)

―確かに周りほとんど田んぼですもんね(笑)。では国際関係学部について決められていたんですか？

国際関係学部本体は、実は私の地元で児童養護施設があつて。その子たちというか、そういうバックグラウンド、背景をもった子達と一緒に小学校、中学校を過ごしてきたっていう背景があつて。なのでどちらかというと、みなさん貧困とかすごいケアとかタンザニアとかの発展途上国の貧困を思い浮かべると思ってますよね。でも私の場合はみんなが可視化できない部分の貧困というか。たとえば片親だったりとか、そもそもお父さんお母さんと一緒に暮らしていないとかっていう生活を見る機会があつたので、そういう機会を経て。かつ英語も生かしたいなというか、英語が好きだったので、なんかそれを掛け合わせてできないかなっていうのを両親と話した時に、父が立命館大学出身だったので、国際関係学部の存在を知っていて、そこにいくといろんなことが学べるじゃないかっていうのを中学校一年生か二年生の時に両親と話したのがきっかけで、国際関係学部がいいなと思った記憶がありますね。

―実は私も国際関係学部を希望しています。

―そうなんですね！

―畠さん確かGS(グローバル・スタディーズ)の方でしたよね。

―そうです。

―めっちゃ個人的な話になってしまってますが、GS専攻って、なんていうんだろう、成績的なところでレベル高かったりするんですか？たとえばTOEFLのスコアだったり英語関係の資格が関係してくる感じですか？

TOEICのスコアは、あれはTOEICだったのかな？立守でみんな

なが受けるやつは。

―TOEFLです多分。

TOEFLは、かなり点数が必要ですね。

―やっぱり高い英語のレベルが必要なんですね。

今の後輩は、行きたい希望がかなり増えているようで嬉しいのですが、私の時にはなかなか挑戦するには雲の上の存在という雰囲気がありました。

―確かに難しいと私も実際思ってます。丁寧にありがとうございます。目指して頑張ります。

立命館守山で学んだこと

―では二番目の質問に移りたいと思うんですが、立命館守山で学んだ一番のことや経験はありますか？

一番の経験ね。たぶん自己表現をすることがいかに大事かを学んだ経験ですかね。目標とかあっても全然言えないタイプだったんです。けどそもそも国際関係学部に行きたい！と思っただけで口に出さなければ誰も私の目標はわからないものですよ。とはいえ、高一の頃の私もそのゴールに熱い思いがあったものの、どう実現して行けるかに不安があったので定期的に先生や両親にそれを表現することを意識していました。

国際関係学部に行きたいっていうのをすごい先生に言っただけのもの、やっぱり結果がついてこない、先生もまあまあ落ち着けみたいな感じになって。でもただ何も言わないでいると、じゃあそのゴールに行くために一体何が必要なのかとかって、たぶん高校生の時期じゃわかんない(笑)

先生たちから「国際関係学部に行きたいなら、まず英語をちゃんと頑

張らないといけない」「あの学部って偏差値も高いし、入ってくる人たちはいろんなことを幅広くできる人が多いからね」って言われました。

「あ、目指してる場所って結構レベル高いんだな…」って、高校一年のときに実感しました。それで、自分がどんな高校生活を送りたいのかとか、何を優先してやっていくかを、自分の言葉でちゃんと言うことって大事なんだなって思うようになった、って感じです。

忍耐力の面では、陸上部に所属していたので、忍耐力の面もそうですし、やっぱりチームで何かみんな目指すものがあるって言うのは、部活に入ってたのは経験としてすごく良かったことかなと思います。

―ありがとうございます。では畠さんが立命館守山に入ってどこか(いい意味で)性格が変わったとか、考え方が変わったところなどありますか？

難しいけど。さっきも言った、自己表現というか、何がしたいか言うのを人に伝える力とかは、たぶんすぐついたなと思います。たぶん性格としては全然悪くなってなくて、むしろ明るくなったねとか言われることが多くなったかなって感じですね。それはもちろん言語で英語をしていたというのも自分の中では大きかったかなって感じなんですけど。やっぱり表現できるようになると、人って表情が若干変わるとかっていうのは、必ずあると思う。さっき言っただけなのに、卯田さんもここに行きたくて！国際関係学部に行きたくて言っただけの時、顔がキラキラついていたかなって思っただけ。人はたぶん目標があるとそれに沿った顔つきになるんじゃないかなって、私的には思っていますね。

―ありがとうございます。畠さんは高校生の時に留学されていたって聞いたんですけど、そのどんぐらいやったかな期間はちょっと覚えてないんですけど、どこに行かれたとか、もう一回期間のこととかお聞きして

もいいますか？

ニュージーランドに十週間。

ーじゃあ三ヶ月ちよい？とか四ヶ月とかですか？

二ヶ月ぐらいかな？いや二ヶ月行つたか、三ヶ月も行かないぐらいやね。二ヶ月と一週間とか。

ーそこで学んだこととありますか？

すごく私の中で大きかったのは、いまでも大事な友達がいて、その子が同い年か、一こ下か。もう年齢とか関係なくなるからちよつとわからへんねんけど。彼女が、私のしたいことはこれで、それに向かつてこういう風に頑張ってるっていうのを、全然恥ずかしがらず言つてたのがすごく当時印象的で。そういう事を口にするのが私はすごく苦手な方やつたし。留学に行くっていうことだけで、私はよつしやとか思つてたんやけど、そういう彼女の表現力の豊かさとか、こういうことがしたくて。でもそしたら、たとえば授業にみんなで一緒にいくとするとるんじやなくて、いや私はちよつと先生と話したいから早めに行くわ、とかつていうのが。極端な例になるんやけど、それをこう自分スタンダード自己中なんじやなくて、自分がこれしたいからしてるっていう、ちよつとロジックがその人の中にあるっていうのが私はすごく素敵やなと思つたのがきつかけで、私もしたいこととしていいんやなと思つて。

その後はちよつと部活動の優先順位を下げた課外活動をたくさんするつていうのを陸上部の先生に相談しに行つたかな。そつから結構、国際関係学部に行くつていう目標に向けて、陸上部に行つてなかつたわけではないんやけど、陸上部つていう存在をちよつと角度を変えたことで、大学進学に向けてスピードアップできたかなつて思つています。ーなるほどありがとうございます。

学生のうちにやりたかつたこと

ーでは次の質問にいかせてもらいます。学生のうちにやらなくて後悔したこととありますか？

難しいね(笑)

ーすみません(笑)

先生に「おい」つて言われそうやけど、もつと定期試験の勉強したら良かったなと思う。

ー成績取つとした方が良かったなと思うんですか。

すごい悪かつたわけではないけど、すごい理系科目が苦手で。今大学生になつてすごく思う。たぶん私、したいことをたくさんやる人なんよね。勉強してるつて自分で思つてなくても、すごいしちやうタイプやなつて。大学に入つてすごい好きな勉強してるから、それを両親に言われてああそうやなと思つたんやけど。

大学に入るまでつて、数Ⅱやれつて言われて数Ⅱやるやん。物理やれつて言われて物理やるけど、何になるねんつてずつと思つて。私、絶対、国際関係学部行くから、使わへんつて思つて。むしろスペイン語とかやらしてくれとか思つてたんやけど。

なんかそういう面では、目の前にあつてそれを好きなだけ勉強してテストで測られる環境つてもう今の私にないから。そういう意味では当時もうちよつとガムシヤラにどんだけでも勉強してみたら良かったかなつて気するけど。たとえ戻つても勉強はせーへんから(笑)。

まあでも、その当時すごい枠に外れていろんな事をやるうとしすぎたかな、と思つたりしなくはないので。たとえばめっちゃめっちゃ陸上部やつたら走り込んでみるとか、めっちゃ課題を死ぬ気でやってみるとか。も

ちろん当時は死ぬ気でやっていたんやけど、今から思うと、もうちょっと力を入れれば良かったのかなとか思ったりとかはする(笑) 田辺先生に怒られそうやけど(笑)

―たぶん見られますよ(笑)。ありがとうございます。これからの人生設計図っていうか、今もう就職されて一つ夢叶えられられたかなって思うんですけど、もう一こ奥に何か夢とありますか？

難しいね。でも結構ずーっと勉強っていうか、勉強っていうのかもわからないんやけど、自己研鑽とか自分がどんどんレベルアップするため、ずーっと同じことやってるってあんまり違うかなって私は思うし。

まあ就職もしたし、今仕事もしてるねんけど、どの仕事も別に、たとえば昇進するとかちよつと位を大きくしていくとかっていうレベルアップの方法はいっぱいあって、職業柄すごいビジネスとか経営とかのことをやってるから、国際関係とは全く別のことやねんけど。そういう意味では、一つ夢を叶えたっていうても、あるっちゃあるんやけど。

こっから自分がどういう風にそこで力を出せるかとか、どうやって評価してもらえるかとかって、自分次第やなって思うし。かと言って、このまま六十歳までここで働きますかって言われたら、今の時代みんなNOっていうのと一緒で。ちっちゃい時から国連で働きたいとかそういうのはあったけど、おっきい夢はあるし。まあそういう意味では、日本にいたけど、海外に出たりとか、いろんな方法があると思うからまだまだ勉強かなって思います。

―まだまだ勉強を続けられるということですね。
そうですね。

―ありがとうございます。国際関係学部って具体的にどんな勉強っていうかどういう授業とかを受けられてたんですか？

結構色々できるっていう結論がまず一つあって。たとえば経営学部とか総合心理学部とかって、もうほんまに心理学やりますとか、経済学経営学とかをやりますって感じなんやけど、国際関係学部は、私は最終的に国際経済を専攻してたんやけど、それまでに美術とかもできるし。

―へーそんな分野の違うところまで。

経営はちよつとないんやけど、もし経営やりたかったら国際経営に行くべきやなって私は思うねんけど。もちろん紛争とか国際法とかそういう、世界をそうやって俯瞰して見て、どんなふう to それを観察したり分析したりするかっていうのが「いっぱい」学べる場所。簡単にいうと。

もしかしたら聞けるかもなんやけど、英語をやる場所。簡単じゃなくて、国際的な関係を学ぶ場所。国際関係論をやる場所やから、どっちかって言う。もちろんGSに行きたいなら、英語ですから英語は必須なんやけど、とにかく色々できるから。自分でやりたいことがあって、それに力をつけるために別のことをちよつと一緒に学ぶとか。国際法とかすごい面白かったし、価値観はすごい広がる。あと自分の芯が必要気がする。何したいかとか、どんな人間になりたいとか。

―なるほど。まだそここのころ曖昧なんで、この二年ぐらいで見つけられるように頑張りたいなって思います。

何年生？

―私、今年二年生です。高校。

二年生か。そしたら、もうちよつとやんな。そしたら、もう希望とか出し始める時期？

―はいそうですね。そろそろ学部のこととも考え始めないといけない時期になってきました。私ことなんですけど、今からあと二週間ないぐらいで日本を出発するんですよ(留学のために)。

メールでも伝えてくれたな。どこ行くん？

―カナダです。

いいやん！一年行くの？

―いや半年なんです。ほんと是一年行きたかったんですけど、海外研修も行きたくって半年にしました。

そうなんや。私も十週間でよかった。あすなろ祭一回行けへんかったんやけど。

―そうなんですよそこがネックで（笑）

そっか。行く時期は一緒なんか。確かに。でもあすなろ祭と同じか、それ以上の経験がきつとできるよ。私は高校で留学して良かったって思う。大学でするより。たとえばやけどさ、大学生になると、お酒飲めたりとかさ、パーティーとかもできるけど、高校生の時ってちよーピュアな状態やから。ホストファミリーの人と一緒にどこか出かけたり、そういう大人になつてからの留学でできひんことが、目いっぱいできるのが高校留学の良さがしてて。高一もちょっと子供やけど、高二になると若干将来を見据えながら行けるから、留学終わった時に自分がどうなつてたいかみたいなの、未来予想図みたいなのを一つ描いていくといいかなと思います。

―留学経験者からの貴重なアドバイスありがとうございます。精一杯頑張ってきます。もう今結構ドキドキしてて。不安もあります（笑）

えー大丈夫。絶対楽しくなるから！安心して学んできて。

―なんか大丈夫って思えてきたかもしれないです。今日は忙しい中ありがとうございました。

こちらこそありがとうございました。また足りないところとかわからないところとかあったら言ってね。

―はい。連絡させていただきます。本当にありがとうございます。

【感想】

自分と同じ経験をしていたり、同じ道に進みたいという共通部分があつて聞いていてすごくためになる時間だった。特に高校時代に畠さんがやりたかったことへの向き合い方は、枠にとられず自分軸で動くことで新しい成長ができるということが感じられた。私も固定概念にとらわれずに、自分の成長・成功に繋がるように行動を考えていきたいなと思つた。そして畠さんと同じ国際関係学部に入り、夢である世界と関わるグローバルな人間になれるように、自分自身をもっと磨いていこうと思つた。



上…聞き手 卯田 理子

下…語り手 畠 麻理奈さん